







# 学園ニュース

〇〇年祭実行委員会」を立ち上げ、種々の行事を四月から六月にかけて市内を中心に開催した。

皇學館大学では、この機会に同実行委員会と共催(産・官・学の協働)して、お蔭参りの参宮客が歩いた街道に焦点をあて、伊勢信仰とお蔭参りの本質について考える「人びとは何故、伊勢を

平成十七年は、宝永二年(一七〇五)のお蔭参り(二カ月で約三六二万人が伊勢に訪れた。当時の全人口の約一割)から数えて三百年となり、伊勢市では伊勢市役所観光政策課内に「おかげ参り三

〇〇年祭実行委員会」を立ち上げ、種々の行事を四月から六月にかけて市内を中心に開催した。皇學館大学では、この機会に同実行委員会と共催(産・官・学の協働)して、お蔭参りの参宮客が歩いた街道に焦点をあて、伊勢信仰とお蔭参りの本質について考える「人びとは何故、伊勢を

道が通過する県内の各市町(本年は、江戸からの参宮客が利用した東海道と伊勢街道)を結ぶ、公開リレー講座を開催することにした。また、本年は平成二十年(一七二七)の参宮客が歩いた街道に焦点をあて、伊勢信仰とお蔭参りの本質について考える「人びとは何故、伊勢を

五年に行われる伊勢神宮の第六十二回式年遷宮諸行事・諸祭開始の年(遷宮元年)でもあり、あわせて神宮と式年遷宮のことについても紹介することにした。

## 「参宮街道を歩く」桑名から伊勢へ」の開催

さらに、十月二十八日から三十一日まで(三泊四日)には、本学文学部大祭「倉慶祭」にあわせて、桑名の「七里の渡の鳥居」(前々回の外宮御正殿棟持柱)前回の宇治橋の鳥居(桑名の鳥居)から、内・外両宮参拜ののち、倉田山に移築された外宮御師福島御塩焼大夫郎門(現、神宮文庫門・黒門)をめぐって、大学まで歩く参宮体験を企画している。到着日は、伊勢市九十九年の最終日(十一月一日)より、二見町・小俣町・御園村と合併し、新「伊勢市」が誕生)の記念すべき日に当たる。以上の事業について、平成二十四年の本学創立百三十年・再興五十年を

# 公開リレー講座 お蔭参り300年記念事業の開催 人びとは何故、伊勢を目指したか



お蔭参りの様子を描いた錦絵。お蔭参りは、約60年周期で起こっていた現象で、今年は宝永2年(1705)のお蔭参りから300年に当たる。

平成二十四年の本学創立百三十年・再興五十年を

記念事業の一環により、この度、神道の歴史に触れる貴重な史料が神道博物館に収められた。史料の内訳は「津軽藩斎藤家文書」をはじめ吉川家関係書状類二十七通を中心とした総計四十二点の文書類、「御宮御普請仕方帳(天保四年吉川従五 斎藤規房宛)一綴、「太田命伝(伊勢二所皇大神宮御鎮座伝記)写本袋綴一冊。代々幕府神道方に任じられていた吉川家は、江戸時代初期の神道家で吉

## 平安の古文書を新たに所蔵

### 伊勢の歴史を知る手がかりに◆国史学科

この度、「伊勢国掃守某皇地売券」という平安時代の古文書が、新たに皇學館大学の所蔵となった。これは心徳元年(一〇八四)伊勢国の住人であった掃守某という人物が、度会郡湯田郷栗野村



の畠一段を、江中大夫という人物に、絹二十疋で売却した土地証文である。今日、「湯田」という地名は小俣町「栗野」という地名は伊勢市に残っているが、平安時代「栗野村」はより広域地名であった「湯田郷」の中に含まれていた。本学からほど近いこれらの土地に関する、九百年以上も昔の実物史料が現存することは、極めて貴重なことと言える。わが国の古代社会は「公地公民を建前としていたため、土地の売買は

の畠一段を、江中大夫という人物に、絹二十疋で売却した土地証文である。今日、「湯田」という地名は小俣町「栗野」という地名は伊勢市に残っているが、平安時代「栗野村」はより広域地名であった「湯田郷」の中に含まれていた。本学からほど近いこれらの土地に関する、九百年以上も昔の実物史料が現存することは、極めて貴重なことと言える。わが国の古代社会は「公地公民を建前としていたため、土地の売買は



### 皇學館高等学校野球部 初戦突破ならず

五で破れ、初戦突破はならなかった。「一点とれば、リズムに乗れたんだが」と岡部監督。今年が最後となる三年生には、あがりかつ、言葉で、一、二年生には、二度と同じ涙を流すまい、と誓い合ったという。東川キャプテンは「全力で取り組んだので充実感を感じている。あとは後輩たちに託したい」と涙ながらに語った。

史料が、内閣文庫所蔵「光明寺古文書」の中に残されているが、これは江戸時代に足代弘訓が写した写本であり、本文書がその原本と考えられる。今後、本学教員を中心とし

た研究者により、この文書の本格的な研究がなされることになって、伊勢市とその周辺地域の歴史が、一層明らかになっていくことが期待される。(国史学科教授 岡野友彦)

## 記念事業

# 「津軽藩斎藤家文書」など44点を収蔵

## 吉川神道と津軽藩との関わりを示す貴重な史料

川神道の創始者・吉川惟足の一族である。津軽藩斎藤家文書」は惟足の玄孫・従門、五代当主・従方、同嫡男・四方(進)のちの六代(従五)から斎藤規房に宛てた書状類が主な内容だ。

吉川家下命の幕府御用、諸藩からの取り調べ依頼、頼、従方の代講等を勤め、当時の吉川家の門人の中

で第一等の学力と識見を有する人物として重用された。書状類からは、吉川歴代当主と規房との関係、幕府神道方を勤めた吉川家の江戸後期の状況を如実に知ることができる。また吉川家と会津藩門人との関係や、吉川神道の秘伝「鳴弦神事」伝授に関する謝礼の金高を記したものの、吉川家後期の経済的困窮を物語る「吉川家再興御手伝金」醸出を依頼した書状等、注目に値する史料ばかりだ。

吉川神道関係史料の内、所在の判明しているものは少なく、こうした吉川本家の動向や津軽藩との関係を窺う史料は極めて希であり学術的にも貴重な存在だ。神道博物館では今後も継続して収集活動を行い、内容をより充実させていきたい。(神道博物館助教授 岡田芳幸)

## 公開リレー講座

### 第一講 参宮街道つらぬく街・〇〇市 一人びとは何故、伊勢を目指したか

お蔭参りとは何か、伊勢信仰を支えた御師と〇〇市の人びと、街道のルート、道標、常夜燈・宿・みやげ・道中の施行などについて

講師：岡田 登 皇學館大学史料編纂所教授

### 第二講 伊勢神宮と式年遷宮

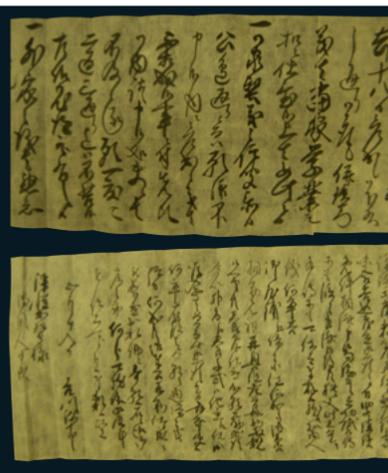
伊勢神宮の構成(125社)・性格(私幣禁断・初参宮は明治天皇・斎宮・三節祭)・式年遷宮(20年1度・行事次第・意義)などについて

講師：井後政晏 皇學館大学文学部教授

聴講無料 (伊勢の観光・大学関係案内資料進呈)

- 第6回 ● 9月10日(出) 13:00~ 津リージョンプラザ2階 健康教室
- 第7回 ● 9月17日(出) 13:00~ 小俣町図書館2階ホール
- 第8回 ● 9月24日(出) 13:00~ 松浦武二郎記念館会議室(三雲町)
- 第9回 ● 10月1日(出) 13:00~ 松阪市中央公民館講座室
- 第10回 ● 10月8日(出) 13:00~ 明和町役場研修室
- 第11回 ● 11月5日(出) 13:00~ いせトピア大ホール

後援：三重県教育委員会、鈴鹿市、松阪市、各町町教育委員会  
共催：伊勢市、桑名市、津市



上/吉川源十郎書状 斎藤規房宛。 下/吉川源十郎書状 津軽出羽守宛。